毎日歌壇

米川千嘉子 選

包丁を洗うときいつも新鮮にこわい私が傷つくことは　東京　遠野　鈴

△評▽包丁というモノの怖さの奥に自分が傷つくことへの恐れがある、と作者。直感に訴える歌で「新鮮に」の選びもいい。

経済が破壊されるとどうなるかいまだ氷河の俺達を見ろ　福岡市　西田　浩之

△評▽就職氷河期世代に今も続く困難。「氷河」の分厚さ、冷たさに閉じ込められて。

予定を合わす事に疲れて一人行くペタペタくっつく孤独を剝がし　三重　中山由賀子

天平の音だと気付き身ぶるいす大仏殿の風鐸の音　奈良市　梅本　幸子

タブレットに慣れたる子たち筆圧の小さく鉛筆2Bとなる　大阪市　小熊　光子

隣町にあるのに近所に見つからぬ五キロ三千円台の米　川崎市　佐久間喜賓

吾子の背に広がっている蕁麻疹指に辿れば血脈の地図　東京　岡田さやか

どんなに花が満ちやうと娘の魂彷徨へり吾の周りに漂へり　生駒市　奥田　充子

植物に今日も学びぬ種落ちしところが終の住処となるを　鶴岡市　大沼　葉子

「はい消すよ」一人の部屋の暗がりで「よ」が一つだけこだましている　札幌市　橘　晃弘

加藤　治郎 選

傳いを説明してと娘からプリンをすくう木陰の下で　川崎市　新井　将

△評▽どう答えたらよいか。難しい問いだ。木陰のプリンはリリカルで美しい。まばゆい光を感じる。娘との幸せなひとときだ。

丸刈りで美しいのは何ミリか悩んでいます（島根県・A）　雲南市　熱田　俊月

△評▽架空の投稿のように思われる。中高生だろう。まっすぐな言葉がユーモラスだ。

田園を自転車で抜けていくようなそんな光を見たと思った　名古屋市　森本　有

神さまも泣くことだってあるのだろう、今宵の月は皆いくらいね　四万十市　佐竹　紫円

洗濯機を弱い洗いにセットして昼間に食べる雪見だいふく　平塚市　芝澤　樹

一瞬だれだかわからない春の胸にはいつもの霧雨　横浜市　大原　香花

桜月夜に介護士や巡視にてオムツ交換にトイレ介助　須崎市　野中　泰佑

あゝ彼を見てはいけないもう羽が生えています、と初夏のホームで　東京　境　千尋

始まりからおしまいまでの平成を生きた悲しい時代であった　岐阜市　山上　秋恵

眠剤をひとつくださいポケットに入れたとたんに効きそうだから　所沢市　里見　脩一

水原　紫苑 選

ひかりとは火を狩ることで山頂のプロメテウスの目はくもらない　東京　石川　真琴

△評▽ひかりの定義がプロメテウスを呼び出す。くもらない目をもつ人間のような神よ。

太陽の光届かぬ冥王星でもそこにいて誰もいなくて　札幌市　橘　晃弘

△評▽冥王星は思いを誘う。そこにいて誰もいなくても、私は私だろうか。

ラフレシアの精に拉致され私たち熱帯雨林の神話になりゆく　横浜市　砂月　七

クレペリンと名付けた亜が初めての収録を終えて電車で帰る　豊橋市　太田　貴大

おひさまが（どうぞ）と影をさしのべる地球より死にかけてる僕へ　四日市市　早川　和博

己が思想ふかめやがては蝕まむその劇薬を孤独といふや　武蔵野市　八田　絵砂

AIが作りし夏のスナップの兄、プールの水をゆらせり　所沢市　里見　脩一

ひっそりと卵の殻を分けている剃刀の目に照らされながら　岡山市　松井　度

一か所に考える葦集めれば火花散らしてすべて灰塵　加古川市　畑　啓之

さようなら蝶よ蝮よ森ふかくたったひとつの椅子にて僕は　雲南市　熱田　俊月

伊藤　一彦 選

ひと叢の白詰草の足袋を履きナンキンハゼは若葉踊らす　河内長野市　寺田　愛子

△評▽若葉を出しているナンキンハゼの木の下にびっしりと咲いているシロツメクサを白足袋に見立てたのがユニークで楽しい。

トランプが何か言うたびハラハラと幼稚園児の母の気分に　東京　河野多香子

△評▽トランプ米大統領に対する嘆きの歌は多いが、このからかいは痛烈で面白い。

皿だけで足りる食事の配布にもガザの子たちは鍋を差し出す　香取市　嶋田　武夫

乗り降りをする人がゐるその度に息をするなり無人の駅は　瑞穂市　渡部　芳郎

暗幕の虫食いに光射し込めば体育館は夜空に変わる　宮崎　門田　藍子

最後まで出ないビンゴの番号のごと好きですが君に言えない　札幌市　住吉和歌子

たいせつなものを届けて梱包のプチプチたちが喜んでいる　池田市　黒木　淳子

山里の桜の下で挨拶し無患子の実の御守り貰ふ　坂戸市　納谷香代子

私には遂に見せずに旅立った　ナースは告げる妻の涙を　野田市　石原　典武

「お薬は朝昼晩と飲みなさい」今日も主治医になりすます妻　戸田市　水沢わさび

投稿規定　はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100－8051（住所不要）毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生（希望選者名）係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム（https://mainichi.jp/kadan-haidan/）でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。

こちらから投稿できます